

## 令和5年度第6回臨時理事会議事録

公益財団法人東京都スポーツ文化事業団

- 1 日 時 令和5年11月8日（水曜日）  
13時00分から14時00分まで
- 2 場 所 事務局共用会議室（日本パーティビル地下会議室）
- 3 理事現在数 7名
- 4 定 足 数 4名（理事の過半数の出席をもって成立）
- 5 出 席 者 9名（理事以外を含む）  
理 事 7名

（理事長）塩見清仁

(常務理事) 越秀幸

(理事) 延與桂、梶原洋子、小林治彦、中川冷子、

平野裕一 (Web 出席)

監 事 2名

飯塚幸子、中山正雄

## 6 議 題

第1号議案 「第25回夏季デフリンピック競技大会 東京 2025 大会基本  
計画」に関する承認について

## 7 議事に至るまでの経過

定刻となり、出席予定者が全員揃ったため、理事会を開会した。議事に入るまで、高木事務局長が進行役を務めた。冒頭、当理事会は東京都スポーツ文化事業団理事会会議規程第7条に定める定足数を満たし、有効に成立する旨を報告し、定款第32条に基づき理事長が議長を務める旨を説明した。

これを受け、塩見理事長が議長として、開会を宣言した。定款第34条により、議事録署名人は出席した理事長及び監事が務めることを確認し、議事を開

始した。

なお、本理事会は Web 会議システムを併用して開催しており、Web 会議システムにより、出席者の音声と映像が即時に他の出席者に伝わり、出席者が一堂に会するのと同等に適時適確な意見交換が互いに出来る状態となっていることを開会前に確認している。

## 8 議事の経過及び結果

第 1 号議案 「第 25 回夏季デフリンピック競技大会 東京 2025 開催基本計画」に関する承認について

### (1) 議案説明

議長が事務局に対して本議案の説明を指示し、北島シニアマネージャーが説明を行った。

### (2) 質疑及び意見

説明終了後、議長から質疑及び意見を求めたところ、以下の発言があった。

(意見)

デフリンピックについて、アンバサダーの方もうまく活用しながら、広報して行っていただきたい。また、ALPS 処理水による風評被害に

関して、日本の安全性というのをしっかりと発信していただきたい。

(回答)

今のところデフリンピックを知っていますかというアンケートを取ると、大体10%台という状況。アンバサダーの方と連携した発信など、継続した取組により、そのパーセンテージが上がっていくと考える。実際の広報の取組は、後ほど説明させていただきたく。

(質問・意見)

駒沢陸上競技場で、デフの陸上競技大会が、テストイベントも兼ねて行われたが、ほかの競技のテストイベント等は、行われるのか。

また、今のデフ競技団体の設立状況と、日本人選手の確保、発掘の状況はいかがか。

大会の成功に向け、一般の方にどれだけ知ってもらえるかが重要。都内の学校の観戦会などを通じて、子供たちにもデフリンピックを知ってほしい。

(回答)

今年度は陸上ほか、テコンドーの大会でテストイベントを実施。耳の聞こえない方が観客としてどのような形で楽しめるのかという視点で検証をしている。

また、デフ競技団体については、団体がないだけでなく、選手がいな

かったりするところもまだあり、本当に地道に取り組んでいる。例えば先ほどのテコンドーの大会では、デフリンピックの選手として出てほしいということを競技団体の方から発言いただいている。

子供たちの観戦についてだが、子供たちにいかに大会に参加してもあるかという視点は非常に重要であると考えている。

(意見)

ろう者や耳が遠いお年寄りも含めた方々が、生活しやすくなるような機器や技術が、大会を契機として開発され、広がっていくとよい。

また、皇室の方が式典へご参加いただくなど、大会へ何らかの形でご参加いただきたい。

(回答)

「デフリンピックスクエア」において、技術の展示やPRを行うほか、透明ディスプレイなどのデジタル技術を、大会の様々な場面で活用していくことなどが重要であると考えている。

式典への皇室の方の参加については、今後調整。

(意見)

2025年までの間に、大会の広報を積極的に取り組んでいただきたい。個人的にも競技の方などに広めていきたいと考えている。

(回答)

エンブレムバッチなど皆さんにお配りできるようなツールができる  
といいと考えている。実際の広報の取組は、後ほど説明させていただき  
たく。

(質問・意見)

デフリンピックスクエアはいつ公表するのか。また、医療サービスに  
ついてだが、各国のメディカルスタッフはどのように医療サービスが使  
えるのか伺う。

スポーツの成熟のためにはボランティアも重要。うまくボランティア  
の区分けをしていただきたい。また、デフリンピック開催の経験やノウ  
ハウをレガシーとして団体に残していくという視点は重要であると考  
える。

(回答)

デフリンピックスクエアは機能の中身が固まってきた段階で、公表し  
ていきたいと考えている。

選手団にはドクターが随行していない場合もあつたり、基礎疾患をお  
持ちの方々も多いと聞く。そのため、各国のメディカルスタッフに対し、  
医療サービスの状況がきちんと伝わるのが重要。事前にどういう情報  
を伝えた方がいいのか、医療の視点は特に気を付けながら準備を進めて  
いく。

### (3) 議決

質疑終了後、議長が本議案について諮ったところ、「異議なし」の声があり、第1号議案は、出席した全理事の一致をもって原案どおり可決された。

### 9 その他

「都の気運醸成に関する大会2年前の取組」について、事務局から説明した。

その他、当事業団の運営等に関して、議長から意見を求めたところ、特段の発言はなかった。

以上をもって、理事会の議事を全て終了したため、議長が終了を宣し、散会した。